

鹿本地域のワーキンググループでの協議結果

日 時：令和元年12月2日（月） 午後7時～午後8時15分

場 所：鹿本医師会館 講堂

出席者：幸村会長、田代副会長、前原理事、松岡理事、水足委員、保利委員、植村委員、豊永委員、桑木委員、橋本委員、小山委員、宮崎副会長（植木）、平田理事（植木）、掃本委員（植木） 14人

※鹿本地域医療構想調整委員会で協議

山鹿保健所：多田隈次長、宮原総務福祉課長、坂井主幹

鹿本医療圏の外来医療機能について

鹿本管内の全医療機関数は、38医療機関（6病院、32診療所）

※施設内診療所・保健所を除く

令和元年11月末現在

1 休日の初期救急（在宅当番医）について

（1）現状

項 目	データ
① 救急患者数	休日 年間4, 392人 1か月366人
② 医療機関数	36医療機関

※H30年度実績 鹿本医師会調べ

（2）目指すべき方向性

① 初期救急に対応する医療機関

当医療圏では、5病院を含む36医療機関が地域の初期救急（在宅当番医）を担っており、年間4,392人の患者に対応している。当番回数は、各医療機関の体制で1回～12回と様々だが、3回～4回の医療機関が多い。また、参加施設あたり年間患者数は、125.5人である。当医療圏のほぼ全ての医療機関が対応しているが、医師の高齢化も進んでいる。現状の体制を維持できるように、既に対応している医師にも引き続き協力要請を行うとともに、新規開業を行う医師に協力を要請する。

2 公衆衛生分野について

(1) 現状

項 目	データ
①学校医	26人(21校)
②予防接種を実施する医療機関 (市町村委託)	36医療機関

※①：公立小・中学校は、医師会提供
県立学校(高校・支援学校)は、教育委員会提供
私立学校は、今回対象外
※②：くまもと医療ナビ(H30年度調査(H29年度実績))
山鹿市ホームページ 予防接種情報

(2) 目指すべき方向性

① 学校医

現状では、学校医については、21校(小学校12、中学校5、県立高校3、支援学校1)、生徒数5,071人に対し26人の医師(眼科は他に植木の医師1人も3校に対応)が対応している。小・中学校は、内科・眼科の計2人の学校医が配置されている。高校は、内科・眼科・耳鼻科の計3人が配置されており、その他(外科)を加えて4人が配置されているところもある。

今後、医師の高齢化による対応医師の減少が懸念されるため、現状の体制を維持できるよう、新規開業を行う医師に協力を要請する。また、既に対応している医師にも引き続き協力要請を行う。

② 予防接種を実施する医療機関

当医療圏では、36医療機関が予防接種法に基づく予防接種を実施しており、接種努力義務のあるA類疾病には30医療機関、任意のB類疾病の接種には33医療機関が協力、対応している。現状の体制を維持できるよう、新規開業を行う医師に協力を要請し、また、既に対応している医師にも引き続き協力要請を行う。

③ 産業医

当医療圏では、認定産業医(日本医師会)は22人いるが、実働している産業医数は把握できていない。産業医の設置が義務づけられた事業所は45ヶ所で、従業者数は5,016人である。認定産業医一人当たり従業者数は228.0人となっている。産業医は、ストレスチェックや長時間勤務者への対応が必要になったことに加え、働き方改革関連法により機能強化が図られており、健康相談等において、より一層の役割が求められているため、新規開業を行う医師に協力を要請するなど産業医の確保に取り組んでいく。

3 在宅医療について

(1) 現状

項 目	データ
①在宅療養支援病院	2 医療機関
②在宅療養支援診療所	10 医療機関
③在宅療養後方支援病院	なし
④訪問看護ステーション	4 ヶ所

※令和元年11月1日現在 九州厚生局届出一覧

(2) 目指すべき方向性

現状では、在宅医療については、在宅療養支援病院・診療所は計12医療機関であり、訪問看護ステーションは小規模ステーションの4ヶ所である。この他に、往診や訪問診療等在宅医療に取り組んでいる医療機関もあるが、詳細な数の把握ができていない。

また、地域の高齢化の進展に伴い、住み慣れた地域で自分らしく暮らすために在宅医療の需要が一層高まることが予想され、鹿本医師会に「鹿本地域在宅医療サポートセンター」を設置している。

今後、新規開業を行う医師への協力要請を含め、在宅医療に取り組む医療機関等資源の把握や調整を図りながら、在宅医療に携わる医療機関の連携体制を強化して取組みを進めていく。

4 医療機器の状況

(1) 主な医療機器の配置状況

機器名	保有台数	機器名	保有台数
CT	11台	マンモグラフィ	1台
MRI	4台	リニアック	0台
PET	0台		

※病床機能報告（H30年度調査）H30.7.1時点
※くまもと医療ナビ（H30年度調査（H29年度実績））

(2) 目指すべき方向性

現状においても、山鹿市民医療センター（地域医療支援病院）で医療機器の共同利用を図っている。

引き続き、地域における共同利用を進めるとともに、(1)にあるような高額な医療機器については、購入、更新等の場合には、地域医療構想調整会議で確認を行うこととする。